総務企業委員会会議録

1. 日 時 平成22年1月15日(金曜日)
午後2時22分～午後3時14分
2. 場 所 委員会室
3. 出席委員 荒山光広委員長 高木法生副委員長
竹岡昌治委員 安富法明委員
南口彰夫委員 田邊諄祐委員
山中佳子委員 三好睦子委員
岡山隆委員 秋山哲朗議長
4. 欠席委員 なし
5. 出席した事務局職員
重村暢之局長 岩崎敏行係長
佐伯瑞絵係長
6. 説明のため出席した者の職氏名
村田弘司市長 林 繁美副市長
波佐間 敏 総務部長 田辺 剛 総務部次長
福田和司 総務部次長 篠田恵司 総務部税務課長

午後 2 時 2 2 分開会

委員長（荒山光広君） それでは、只今より総務企業委員会を開会いたします。先程の本会議におきまして本委員会に付託されました議案 1 件につきまして審査いたしますのでご協力をよろしくお願いいたします。それではこれより審査を始めます。議案第 1 号美祢市税条例の一部改正についてを議題といたします。執行部から説明を求めます。はい、篠田税務課長。

総務部税務課長（篠田恵司君） 議案第 1 号美祢市税条例の一部改正についてをご説明いたします。議案については 1 - 1 ページ。新旧対照表については 1 ページでございます。参考資料の 1 ページをお開き願います。美祢市税条例第 90 条、身体障害者等に対する軽自動車税の減免についての改正でございます。これにつきましては、山口県が平成 22 年度より、自動車税及び自動車取得税の減免について改正を行うのに連動して、軽自動車税においても見直しを行うものでございます。これまで、減免の要件といたしまして、減免対象軽自動車等にあつては、障害者ご本人の所有か、18 歳未満の身体障害者または精神障害者と生計を一にする者が所有する軽自動車等で障害者自身の運転か、またはその障害者のために生計同一者が運転する場合、若しくは身体障害者等のみで構成される世帯にあつては、その世帯員を常時介護する者が運転する場合、としておりましたが、今回の改正により、減免対象とする軽自動車等について、身体障害者または精神障害者のために運転する目的で、その生計同一者が所有する軽自動車等に関して、18 歳未満の身体障害者という年齢制限を削除とし、身体障害者等のために生計を一にする者が所有する軽自動車等についても減免対象として、1 人の障害者に対し、普通自動車等を含め、1 台を限度として、減免するものであります。

次にお手元に配布しております「身体障害者等に対する軽自動車税の減免制度改正案」をご覧下さいませ。現行制度と改正案との比較をしておりますが、先にご説明申し上げたとおり、これまで、減免対象軽自動車等を原則障害者ご本人の所有としており、生計同一者が所有する軽自動車等については、18 歳未満の身体障害者、知的障害者、精神障害者と生計同一していることが要件とされてきましたが、18 歳未満という身体障害者の年齢制限を廃止することにより、身体障害者、知的障害者、精神障害者と生計を一にしている者が所有する軽自動車等について、その障害者の通院、通所、通学、生業等のために使用される場合には、その障害の程度

により、減免対象とするものでございます。先の新旧対照表など今回一部改正を行う市税条例第90条第1項第1号においては、身体障害者、精神障害者の表記があるものの、知的障害者についての表記がありませんが、これにつきましては、これまでの国からの通達文書等において、知的障害者との生計同一についても減免対象とすることとなっております。また、山口県では減免申請の際の提出書類など運用面においても、いろいろ緩和されることから、本市においても緩和措置を構ずるものです。これまで、生計同一であることや、常時介護者であることの確認手段として提出を求めることがありました福祉事務所発行の「生計同一証明書」や「常時介護証明書」の提出は必要なく、代わりに生計同一に関しては、障害者と生計同一者が同居の場合には、住民基本台帳等による確認、同居していない場合には、健康保険証や市県民税の申告において、扶養とされているかなどにより、生計同一であるか否かの確認をするものとし、それらで確認できない場合には、本人からの「申立書」によることとするものです。

次に、車輛の使用目的を確認するものとしましては、「病院・施設などの証明書」、「病院の領収書」、「学生証」などにより通院、通所、通学、生業などのために当該車輛が使用されるということを確認することとするものです。なお、入院・入所の一時帰宅につきましては、従来どうり「病院・施設などの証明書」の提出を求めることとなります。また、常時介護者であることの確認方法としまして、従来の「常時介護証明書」に代えて、その世帯が障害者のみで構成される世帯であるか否かについては、住民基本台帳等で確認したうえ、「運転計画書」、「施設・学校等の証明書」、「誓約書」の提出を求めることとするものです。提出書類など、取り扱いについては、こうした内容となっております。この一部改正につきましては、平成22年4月1日施行とするものでございます。以上でございます。よろしくご審議くださいませ。

委員長（荒山光広君） 説明が終わりました。本案に対する質疑はございませんか。はい、南口委員。

委員（南口彰夫君） 只今の説明で少し素朴な質問をと言うことで、一つは障害者の中で身体と精神で指定されているんですけど知的障害者にも療育手帳というのが発行されています。療育手帳を保持しながら車の免許を取得されてる人もおるんですね。ここではそうした俗に言う知的障害者が対象としてはどういう評価

の基準でなされているのか。それから軽自動車税といえば一般的にその貨物車と乗用車に区分されるんだと思うんですが、実際に減免になる税額ですね金額、税額わかれば一緒に説明して頂きたいと思います。

委員長（荒山光広君） はい、篠田税務課長。

総務部税務課長（篠田恵司君） 南口委員のご質問にお答えいたします。1点目の知的障害者についての基準でございますが、手帳に記載されてあるAのこれは重度の障害ということでございますが、療育手帳にAの表示があるものでございます。2点目の税額についてでございますが、減免対象となります軽自動車税には原動機付自転車、軽自動車、小型特殊自動車、2輪の小型自動車がありますが、それぞれ原動機付自転車についても排気量により税額が異なっております。ちなみに50CC以下の原動機付自転車については1,000円、90CC以下のものについては1,200円、125CC以下のものについては1,600円、3輪以上で20CCを超えるものについては、いわゆるこれはミニカーと呼ばれているものでございますが、2,500円、小型特殊自動車、農耕用の作業車でありましたが、2,500円、フォークリフトやユンボ等、その他のものについては4,700円、250CC以上の2輪の小型自動車につきましては4,000円、それから軽自動車、2輪の軽自動車の中に2輪、3輪、4輪とありまして、250CC以下のものにつきましては2,400円、3輪につきましては3,100円、軽自動車の乗用のものにつきましては営業用では5,500円、自家用では7,200円、貨物用で営業用が3,000円、自家用で4,000円、以上でございます。（発言する者あり）

委員長（荒山光広君） はい、篠田税務課長。

総務部税務課長（篠田恵司君） 南口委員の只今のご質問にお答えいたします。平成21年度における軽自動車税の減免金額は75万9,000円となっております。1人の障害者に対しては普通車、軽自動車を合わせ1台の減免ということでありますので美祢市において障害者手帳をお持ちになっている方の数と現在普通車を含め減免申請をされている方の数、あるいは減免対象となる障害の等級などから総合的に判断して障害者と生計同一であることを理由として今後新たに減免申請されるものについては最大限見積もって50万円程度の金額になるかと考えております。

委員長（荒山光広君） はい、南口委員。

委員（南口彰夫君） ありがとうございます。それでちょっと戻るんですけど先程療育手帳でAのものは対象になると言うこと何ですかいいね。しかしBは対象にならないんですか。療育手帳は。

委員長（荒山光広君） はい、篠田税務課長。

総務部税務課長（篠田恵司君） そういうことになろうかと思えます。県のしおりなどによりまして重度のAということが表示されております。

委員長（荒山光広君） はい、南口委員。

委員（南口彰夫君） そこでねこの市条例の一部改正で条例のこの抜粋しかなくないからちょっとここに例規集がないから確認のしようがないんですけど、ここで書かれているのが、身体障害者もしくは精神障害者ということだけで書かれちゃうんですけど、療育手帳の場合はどちらにもあてはまるのですよね。ですからそれはどっかの文書に出てくるんです。

委員長（荒山光広君） はい、篠田税務課長。

総務部税務課長（篠田恵司君） 90条第2項で出てきます。それについては今回の改正文の中に入れておりませんが、今、私のほうで条例のコピーしたものがありますのでこれから配付をお願いしたいと思います。（発言する者あり）

委員長（荒山光広君） どうぞ。（資料配付）課長さんいいですか、説明引き続きお願いいたします。

総務部税務課長（篠田恵司君） 先程、南口委員さんのご質問にお答えします。今回の改正では90条第1項第1号のみの改正でございますが、90条第2項におきまして身体障害者手帳や療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、あるいは戦傷病者手帳に関する記載があります。これに基づいて知的障害者と生計同一されておる方の軽自動車税の減免も可能になろうかと考えております。

委員長（荒山光広君） よろしいですか。はい、南口委員。

委員（南口彰夫君） ありがとうございます。大変勉強になりました。私議員生活20年近くやっちゃって、たいがいこの方向の球を投げるとちょっと休憩に入ると思ってたんですが、資料がばっさり出てくるとは予想外でした。ありがとうございました。

委員長（荒山光広君） その他質疑はございませんか。はい、岡山委員。

委員（岡山 隆君） この90条の美祢市の税条例に関して非常に国・県からこういう方向でちょうことで、減税対象ということで非常に私はこういった議案のですね非常にいいことではないかと思っております。どんどんこういったことは推し進めていかなくってはならないと思っております。それでですね今回この中で改正案に関しまして（1）で身体に障害を有し歩行が困難な者（以下「身体障害者」という。）または精神に障害を有し歩行が困難な者という形で記載がされております。こういったことで、まず第1点としてですね精神に障害を有しているけれども歩行が困難でなかった者に対してはこういった対象になるのか減免あるのかどうかこれを1点聞きたいということと、それとあとは身体に障害を有して若いときからそういった形になっておられる方もおられますけれどもその等級が療育手帳で記載で1級とか2級とか3級とかあります。その辺が1級の方が減免なのか、それとも2級、3級どの程度の方がそういった対象になるのかその辺も教えて頂ければ嬉しいなと思っております。いずれにしてもまた60歳、70歳なってですね逆に何を言いますか体が不自由になって歩けなくなってそういったことも当然等級が1級または2級、3級そういう形もあると思いますけれどもそういった方の等級、減免はどういった1級の方が、2級、3級は対象外、減免にならんのかどうか、この辺についてちょっとご説明して頂きたいなと思っております。

委員長（荒山光広君） はい、篠田税務課長。

総務部税務課長（篠田恵司君） ここに平成21年度版の山口県の自動車税、自動車取得税の減免のしおりというものがありますので、まずこれを委員様のほうにお配りしたいと思います。

委員長（荒山光広君） はい、どうぞ。（資料配付）はい、課長、それでは引き続きお願いします。

総務部税務課長（篠田恵司君） お手元に配付しました山口県のしおりにつきましては、山口県が22年度より改正する前のしおりでございます。中をお開きいただきますと障害者本人が運転する場合のそれぞれの障害の等級、それから生計を一にする者が運転する場合の障害の等級、こういうものがいろいろ記載されておりますが、これにつきましては国からの通達により障害の等級についての国からの通達によりこれが決めてあるものでございます。以上でございます。

委員長（荒山光広君） 岡山委員、よろしいですか。

委員（岡山 隆君） しっかりと中身をもう一遍よく見て、いずれにしても決まったことですから非常に嬉しいことではないかと思っております。以上でいいです。

委員長（荒山光広君） その他質疑はございませんか。はい、竹岡委員。

委員（竹岡昌治君） 岡山委員が質問されたのは身体に障害を有し歩行が困難な者と書いてあるんよね。大変失礼な言い方をするけど両腕がなくなった。これも大きな身体障害者ですよ、ところが歩行ができるんですよ、だから岡山委員が言われたのは歩行が困難なものでなければいけないのかという質問じゃったと思うんじゃないけどそれが1点。ついでにもう1点聞きたいんじゃないけど、常時介護者のいわゆる証明といいますが、今までは福祉事務所が証明を出したらいいと、今度はね運転計画や施設や学校等、学校等ですから病院もあるんじゃないと思うんですが、証明書、誓約書、行政の手続きをできるだけ簡素化にしていかにゃいけないのにできるだけ複雑化していくようなことがあるんじゃないけど、その何か問題があったんですか。福祉事務所だけの発行では、その辺をもう1点。以上。

委員長（荒山光広君） はい、篠田税務課長。

総務部税務課長（篠田恵司君） 竹岡委員のご質問にお答えいたします。先程の岡山委員のご質問と連動してのご質問でございますが、歩行が困難であるという表現になっておりますが、身体障害者の手帳をお持ちになって、かつ該当する等級である者につきましては減免対象となるものでございます。2点目の常時介護者にかかる場所の誓約書等の提出でございますが、特段問題が発生したということではなく、山口県のほうでそういう取り扱いをされるということで今回本市を含めて改正をされる市においてもこういう取り扱いをされるということで、本市においてもこのようなものを提出を求めるようにしておるわけでございます。以上でございます。

委員長（荒山光広君） はい、竹岡委員。

委員（竹岡昌治君） 大変失礼な言い方をしますけどね、県がそうじゃから市もそうしますというんじゃないで、歩行が困難な者というのはまったく文言はいらんんじゃないかという気がするんですよ。たぶん岡山委員そう言いたかったと思うんですよ。県がそういうちよるからその必要がないのに歩行が困難な者いれたりですね。それから、ええかいの（発言する者あり）それじゃ続けます。結局ねじゃあ美祿市独自で何を考えたんかと言いたいんですよ。いらん文言が入ったり、

それからもう一つは今まで何ら問題はなかったというのに限らず何で行政手続きをより難しい方向を選んでいくのか、問題があったんならね改善してより難しくされてもいいと思うんですが、私はできるだけ障害者の皆さん方が減免の申請しやすいように、むしろ改善すべきじゃないかなと思うんですね。ただそれが国が県がというような言い方をされるとどうもちょっと抵抗を感じるんですよその辺はどうなんですかね。

委員長（荒山光広君） それでは、暫時休憩をしたいと思います。

午後2時49分休憩

.....

午後3時10分再開

委員長（荒山光広君） それでは休憩前に続き会議を続行します。先程の答弁についてですが。はい、篠田課長。

総務部税務課長（篠田恵司君） 竹岡委員さんのご質問にお答えいたします。障害の区分、例えば、上肢・下肢についても上肢については、1級・2級、下肢については、1級から6級といったようにそれぞれ障害の内容によって対象となる等級が違いますので、そういったものを一つの表現としてこういった歩行が困難な者と言う表現を用いたものでご理解をいただきたいと思います。2点目の提出書類などについては若干の煩雑さを伴いますが、国から示されたものでもありますのでご理解をいただきたいと思います。以上でございます。

委員長（荒山光広君） よろしいですか。その他質疑はございませんか。はい、三好委員。

委員（三好睦子君） 先程の提案説明の中で軽自動車税に関わる減免基準の一部見直しを行うものとありますが、一部と言うことは自動車取得税はどうなんでしょうか。これも一緒に減免される対象になるんでしょうか。

委員長（荒山光広君） はい、篠田課長。

総務部税務課長（篠田恵司君） 三好委員のご質問にお答えいたします。先程自動車取得税のご質問でございましたが、自動車取得税につきましては県の税でございますので県のほうで減免基準を設けて減免されることとなります。以上でございます。

委員長（荒山光広君） よろしいですか。その他質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（荒山光広君） それでは、本案に対するご意見はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（荒山光広君） よろしいですか。それではこれより議案第1号美祢市税条例の一部改正についてを採決いたします。

本案について、原案のとおり決することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（荒山光広君） 全員異議なしと認めます。よって議案第1号は原案のとおり可決されました。

以上持ちまして本日の本会議で当委員会に付託されました議案1件につきましての審査を終了いたします。誠に協力ありがとうございました。以上で本委員会を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

午後3時14分閉会

上会議の顛末を記載し、相違ないことを証するためここに署名する。

平成22年1月15日

総務企業委員長

荒山光広